

会員生協ボランティア活動 支援助成のご案内



福井県生協連合会加盟生協のボランティア活動を支援します。
対象期間:2018年4月1日より2019年3月31日までの期間の活動を対象とします。

〈申請締め切り〉第一次申請……2018年6月30日 / 第一次申請以降…予算額に達するまで

①一般ボランティア活動部門

〈助成金額〉1生協5万円を上限として、
総額20万円の予算内で行います。

〈申請対象となる活動分野〉

- *福祉…身体障害・知的障害・精神障害者、難病・長期疾病者、高齢者などの社会生活を豊かにするなどの活動
- *環境…自然保護、環境保全、リサイクル活動や環境保全に関する啓発などの活動
- *教育…子どもの健全育成、子育て支援などの活動
- *国際協力…留学生・研修生などの外国籍市民との交流、途上国への協力などの活動
- *その他…県連理事会で承認されたボランティア活動

②東日本大震災復興支援活動(交流活動含む)部門

〈助成金額〉1生協10万円を上限として、
総額40万円の予算内で行います。

〈申請対象となる活動分野〉

東日本大震災復興支援活動(地元避難者支援、現地復興支援、復興支援交流活動など)を支援します。

問い合わせ先

それぞれの会員生協窓口、
または福井県生協連合会窓口まで。



3.11 を忘れない

～ひとの復興～

手仕事を事業として続ける難しさ 乗り越えるため新しいことに挑む喜び

みやぎ生協から被災地・宮城のいまをお伝えします

東松島ステッチガールズがデンマーク刺繍のクロスステッチの製造販売を始めて、ことしで4年になります。きっかけは震災後、刺繍の先生でもあるタレントの岡田美里さんの呼びかけで始まったワークショップです。手仕事は女性たちの収入になり、心の励みになりました。活動を支えていた東松島みらいとし機構は2014年、刺繍を仕事として続けていきたいという女性たちの賛同を得て事業化を図りました。現在、作り手は25人。東松島市はもちろん石巻市からも参加があります。

事業を続けるには経営の安定が求められます。不安はないかという問いに、事務局の東松島みらいとし機構の芳賀朋子さんは「今、まさに不安です」と答えます。

「復興支援で買っていた時期は終わりました。また刺繍は工業製品のように大量生産ができない。労働力と価格のバランスが取りにくい製品の価値を、分かった上で購入していただくことの難しさを実感しています」。作り手さんたちは図案に添って一針一針丁寧に糸を刺し、商品を仕上げます。納期もあれば検品もあります。間違いがあれば修正をかけます。その労力に見合った収入を得られればいいのですが、なかなかそうはいきません。

刺繍以外の収入源を確保するため、東松島ステッチガールズは昨年オリジナル刺繍キットやピシヨップ(刺繍を施したワンピース)

キットなど、商品の幅を広げました。作り手の伊藤早苗さんは、東松島ステッチガールズの魅力を「自分の作った物が売れていき、オリジナルの商品を開発できる喜びがあること」と話します。

東松島ステッチガールズの活動拠点は仮設商店街の一角にあります。「復興の進展に伴って、ここも撤去する予定です。今後集まる場所をどうするか、活動の形態をどうするか、これから考えていかなければなりません」(芳賀さん)。

東松島ステッチガールズには「東松島を刺繍のまちとして広めていく」という大きな夢があります。震災を契機に生まれた夢を震災の風化で終わらせないために、芳賀さんや伊藤さんたちはこれからも前向きな気持ちを分かち合いながら事業を進めていこうとしています。

©東松島ステッチガールズの商品は「とうほくしごとカタログFUGCO」vol2 (P20)でご紹介しています。

<http://www.miyagi.coop/support/shien/handmade/>



▲活動拠点のDMCショップ東松島店(東松島市、岡田美里さん、刺繍用品専門店DMC(株)の支援で設置)で、芳賀朋子さん(中央)と伊藤早苗さん(左)、田中典子さん。



▲定番のハンカチやタオル、新開発の刺繍キット、ピシヨップワンピースなど豊富な商品アイテムが用意されています。

家族でたのしくまなぶ 防災・減災フェア2018 開催

月日 3月25日(日)

会場 福井県産業会館1号館



防災科学実験ショー



紙ぶるとストローハウス

日本国内で多くの自然災害が頻発している現在、福井で「もしも」があってもあわてない備えや知恵を、さまざまな体験ブースやステージイベント参加を通じて家族で楽しく学んでいただこうと、労働福祉団体や全労済福井推進本部・福井県民生協が中心となって『家族でた

のしくまなぶ 防災・減災フェア2018』を開催し、福井県生協連合会も共催しました。

防災クイズや防災科学実験ショー、セミナーや講演会、体験ブースでは卵の殻を使ったガラス散乱体験と紙スリッパづくり、ダンボールでの簡易トイレづくり、応急処置学習や負傷者搬送体験、起震車体験など、参加型メニューが盛りだくさんでした。いくつものブースをまわって、クイズの景品や紙スリッパ、ダンボールの簡易トイレなどを抱えた子ども達も多く見受けられました。

災害から身を守るために何をすればよいのか、日頃からの防災意識を高めることの大切さを学んだ一日でした。



全労済福井推進本部ブース



県民生協ブース

いきいき消費者フォーラム in 2018開催

「ともに築こう 豊かな消費社会」

～誰一人取り残さない～



5月26日(土)に福井市のアオッサで開催された「いきいき消費者フォーラムin2018」(消費者総合フォーラム交流展実行委員会主催)で、福井県生協連合会は毎年大好評の花ポットを販売しました。売上金は毎年、東日本大震災復興支援として募金しています。

また、テレビでコメンテーターとしておなじみの住田裕子弁護士による「消費者トラブルの現状と長寿社会の安全安心な暮らし方」と題した講演会が開催されました。

